



「ロボットにおける電波利用の高度化について」セミナーの開催

近畿総合通信局・近畿情報通信協議会は、電波政策の最新の動向を紹介するとともに、新しい電波利用技術の研究開発に携わっている産・学・官の講師の方々をお招きし、電波利用促進セミナーとして、「ロボットにおける電波利用の高度化について」セミナーを10月3日に大阪市内で開催しました。

「ロボットにおける電波利用の高度化に関する

電波政策と今後の取り組み」

総務省 総合通信基盤局 電波部 移動通信課 課長補佐 伊藤 英知

現在、ロボット／ドローンの多様な分野での導入が見られるなど普及の機運が高まっていることから、電波利用の高度化に関する電波政策と導入拡大に必要な制度の最新動向、今後の展望について話されました。



「ドローンの技術的課題と今後の展望」

(株)自立制御システム研究所 代表取締役CEO

千葉大学大学院工学研究科 人工システム科学専攻 特別教授 野波 健蔵 氏

これまで、ドローンについてはエンターティメントの利用が中心であったものから、今後急速に様々な産業で重要な役割を果たすことが予想されるとして、現在ドローンを使って実証実験をしている事例について紹介されました。

続いて、千葉市ドローンの宅配プロジェクトの実証実験においての問題点や安全性を担保する新制度の設計についても話されました。



「セキュリティ分野におけるロボット活用の動向とそれを支える技術」

セコム株式会社 IS研究所 センシングテクノロジーディビジョン

サブマネージャー 渡並 智 氏

2015年12月に、世界初の民間防犯用として実用化された自立型飛行監視ロボットの研究開発の取り組みと、技術動向について説明をされました。

また、セキュリティサービスに使用する警備ロボット・無人飛行船への無線通信についての技術的な要求やその課題についても話されました。



「ロボットのための電波利用の課題と将来展望について」

国立研究開発法人 情報通信研究機構 (NICT)

ワイヤレスネットワーク総合研究センター 上席研究員 三浦 龍 氏

急速に拡大するドローンのニーズ、その安全運航のためには無線通信が不可欠であり、長距離飛行のための見通し外におけるハンドオーバーなどに必要な電波技術や課題について説明されました。

あわせて、ドローン等で使用する周波数の国際的な動向についても話されました。





総務省

10月はテレビ・ラジオの「受信環境クリーン月間」です なんばウォーク（大阪市中央区）で広報活動を実施

テレビやラジオの受信環境を守るため、毎年10月を「受信環境クリーン月間」とし、広報活動等に取り組んでいます。

このスタートセレモニーが大阪市中央区の地下街なんばウォークで1日に開催されました。

最初に、近畿受信環境クリーン協議会会長 渡辺 尚 氏（大阪大学大学院情報科学研究科教授）から、テレビ・ラジオの放送は、日常生活にとって今も欠かすことのできない、最も身近なメディアです。最近の豪雨被害はもとより、災害時にはとても重要な情報入手手段ですが、「電波障害」が発生すると重要な情報が入手できなくなります。命を守るためにも受信環境を守りましょうと挨拶されました。



渡辺会長の挨拶



なんばウォークでの周知啓発活動

続いて、近畿総合通信局 土屋正勝 放送部長 からデジタル放送は、アナログ放送よりも受信障害に強い特徴がありますが、その反面受信障害が起こった場合、原因がわかりにくいといった短所も持ち合わせており、実際は自己設備の不良による「受信障害」も少なくありません、本日配布するリーフレットを活用いただくことで速やかな「受信障害」の解消につなげていただくため、周知啓発活動に取り組んでいるところです、と呼びかけがありました。

セレモニーの後、周知啓発活動及びテレビ・ラジオの受信障害なんでも特別相談を現地にて実施しました。

災害情報共有システム (Lアラート)

総務省は、「公共情報コモンズ」が新たな発展モデルに進化することを踏まえ、国民に分かりやすい「災害情報共有システム(Lアラート)」という名称を導入しました。

<http://www.fmmc.or.jp/commons/>



編集・発行

近畿総合通信局
総務部総務課
企画広報室

〒540 -8795

大阪市中央区大手前1-5-44

大阪合同庁舎第1号館

TEL : 06(6942)8508

<http://www.soumu.go.jp/soutsu/kinki/>